

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1995. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 134

日本野鳥の会埼玉県支部

埼玉県支部についてのQ & A

第1回

埼玉県支部が始まっていつの間にか11年目。会員数も2,500名を越えました。会員数も少ない発足当初はだれでも知っていたはずの支部の状況も、不案内の会員の方がいつの間にか多くなっています。そこで、これから折に触れて断続的特集シリーズとして、埼玉県支部の歴史から現状についてのQ & Aをお送りします。

埼玉県支部は、どういう経緯で生まれたのですか

それにお答えするには、今の埼玉県支部が出来る前からのお話が必要でしょう。

いわば有史以前の歴史ということになりますが、1971年（昭和46年）10月21日、埼玉県内北部の野鳥の会会員たちが主となって、熊谷市内に財団法人日本野鳥の会埼玉支部というのが設立されました。支部長には、熊谷市内の由緒ある旅館の当主で、後には全国の調理師会の会長を務めたり、学校法人今昌学園を設立するなど、手広い活躍をしていた今井昌彦氏が就任しました。

7年後の1978年（昭和53年）の9月20日にはその埼玉支部が財団法人日本野鳥の会埼玉県支部と名称変更しました。ほとんど同じ名前ですが、これはまだ今の埼玉県支部とは違うものです。この時の支部長も今井昌彦氏、会員数は約300名でした。

さらに4年後の1982年（昭和57年）4月24日に支部長が池谷奉文という人にかわりました。その新しい支部長の方針により、2年後の1984年（昭和59年）3月、財団法人日本野鳥の会埼玉県支部は組織変更して、財団法人埼玉県野鳥の会となりました。この財団法人埼玉県野鳥の会の設立は、当時の日本野鳥の会の指導方針と相反するもので、なんと日本野鳥の会とは離れて、全く別な道を歩き始めてしまったのです。

困ったのが、その当時会員であった人達です。「日本野鳥の会」の「埼玉県支部」に入会したはずなのに、その団体が日本野鳥の会とは関係のない団体になってしまったのですから。

何人かの会員たちが集まって、善後策を検討しました。結論としては、既に別な団体

になってしまったものをどうこうしても始まらない、なくなってしまった埼玉県支部を再建するという一点で行動しようということになり、今井昌彦氏を会長に、熊谷市の鈴木忠雄氏、堀越照雄氏、寄居町の田村照治氏、石井生高氏、浦和市の海老原美夫、西城戸司氏の計7名で、日本野鳥の会埼玉県支部設立準備会を結成しました。

その設立準備会から埼玉県内に居住する日本野鳥の会の会員たちに呼びかけました。こういう経緯で1984年（昭和59年）4月24日本部理事会で設立承認されたのが、今の埼玉県支部なのです。

なお、財団法人埼玉県野鳥の会となった団体は、新聞報道などによれば、その後財団法人埼玉県生態系保護協会と名前がかわり、活動を続けているようですが、日本野鳥の会とは全く関係のない存在となっています。

埼玉県支部の設立当時の状況はどんな様子だったのでしょうか

1984年（昭和59年）5月1日には支部設立を新聞発表しましたが、そのときの会員数は164名でした。支部事務局は、住所の上では今と同じ「浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号」ですが、同所の海老原美夫の事務所の一部に間借りしていました。

役員構成は、ほとんど設立準備会のメンバーですが、次のとおりでした。

支部長 今井昌彦

副支部長 鈴木忠雄 田村照治 海老原美夫
幹事 西城戸司 今井明巨 石川敏男 長野博行

監事 堀越照雄 石井生高

既に亡くなられた方もいて、現在も役員として活動しているのは、石川敏男氏と、海老

原の2名だけになってしまいました。

初めて開かれた役員会議は、同年5月4日熊谷市内の支部長宅・今井旅館の一室に今井明巨幹事を除く役員と本部からの来賓・川崎惟男常務理事（当時）と園部浩一郎事務局員が集まり、最初の事業

計画や予算、探鳥会の予定、今後の支部の在り方などについて議論をかわし、支部報『しらこぼと』は毎月1回発行したい、探鳥会は毎月3回くらいは開きたいなどと話し合いました。

支部の最初の探鳥会は、5月6日浦和市秋瀬地区で開かれ、66名が集まりました。

何しろ会としての人的資源・金銭的蓄積なども何もない状態での大変困難な出発でしたが、次々と協力を申し出る声も相次ぎ、何とか歩きだすことができました。「みんなでかつぐ埼玉県支部」の出発でした。

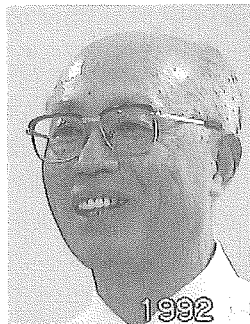
歴代支部長は、どういう人たちですか

最初の支部長今井昌彦氏については、既にご紹介した通りです。埼玉県支部設立以前からその後も引き続き指導的役割を果たしました。日本野鳥の会50周年記念感謝状や1988年全国野鳥保護の集い鳥類保護連盟会長賞などを受賞、1989年（平成元年）6月に鈴木忠雄2代目支部長に道を譲りましたが、1992年（平成4年）8月19日、75歳で惜しくも亡くなりました。

2代目支部長の鈴木忠雄氏は、熊谷市内の鈴木胃腸科医院の院長先生。1989年から1992年（平成4年）6月までの3年間、支部長を務めました。現在も顧問として支部活動に助言をいただいています。元気に海外旅行を重ね、ケニア旅行の写真展なども開催しています。ご本人から体調がすぐれないから支部長交替したいと申し出があり、お医者さんの



今井昌彦初代支部長



鈴木忠雄2代目支部長



松井昭吾現支部長

言うことだからと承認したのに、どうも医者の仮病にだまされたかな、と言う声も。会員の敬愛を集めている前支部長です。

その後を継いだのが、松井昭吾現支部長。ご存じ「白頭鷺」。長年勤めた会社を今年退職して、支部活動にさける時間が大幅に増えたと張り切っています。英語べらべらの国際派。これからも長い活躍が期待されます。

埼玉県支部の活動の目的は

当支部の規約第3条（目的）には、次のように書かれています。「支部は自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及びその適正な保護思想を普及することにより、県民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。」

日本野鳥の会の理念を要約した文章は次のとおりです。「日本野鳥の会は、自然を尊び守り賢明に利用することが人類の存続と幸福にとって不可欠であるとの認識に立ち、野鳥を通して自然に親しみ自然を守る運動を、社会の信頼を得て発展させることによって、自然と人間が共存する豊かな環境をつくることに貢献する。」

要するに内容は同じことです。「野鳥を自然のシンボルとして、自然と人間が共存し、人間性豊かにくらせる社会環境を目指して活動する」ということです。

さらに具体的な事については、またの機会に続けましょう。（文責・海老原美夫）

1995年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1月15日、県内一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施されました。当日は強い冬型の気圧配置で快晴に恵まれ、少し北風が寒いものの絶好の調査日和となりました。今年も狭山湖と昭和池については会員の方々の参加を頂き、一部地区は調査員をお願いし、他に会員の方々からのご報告を含め、県内で19ヶ所、38名の方の御協力を得ました。

調査地毎の1995年カウント結果と最近10年間の合計値の推移(表)と1982年からの県内集計数の推移(図)を示します。今年はホオジロガモの記録もなく種類数が16と少ない結果でした。図において、1989年新たに完成した渡良瀬川遊水池・貯水池を除いた1990年調査地を対象とした集計値は、今年は昨年にくらべて若干減少しており、1985年をピークとする減少傾向が続いているようです。渡良瀬を含めた県内全集計値も昨年に比べて若干減

少し、調査地点の増加の影響を除くため1990年調査地について比較しても、やはり減少の傾向を示しています。

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。(執筆 三田長久)

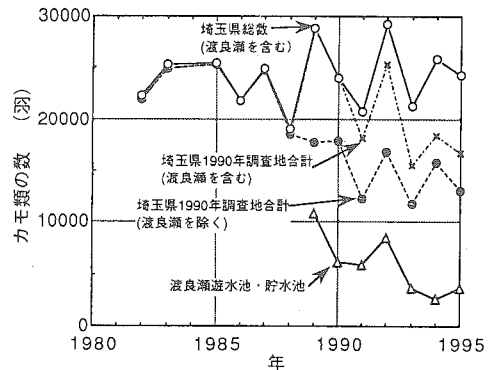


図 カモ類の合計値の年変化

表 1995年カウント調査結果と過去

調査地	人間川	荒川				古利根川	利根川	渡良瀬川	狭山湖	小群川調整池	新河岸川	百穴湖	武蔵野公園 森林公園
調査範囲	豊水橋～ 新富士見橋	荒川鉄橋 ～戸田橋	道満(荒川 第一調整池)	秋ヶ瀬橋 羽根倉橋	荒川大橋 明戸せき	寿橋～ 越谷市	敷東大橋 下流	遊水池 貯水池			川崎橋～ 曇橋	大沼	山田大沼 など
地域	狭山市	川口市 戸田市	戸田市	浦和市	江岸区 江東区	越谷市 松伏町	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市	吉見町	滑川町
コハクチョウ					147								2
オシドリ													4,031
マガモ			138	62	257	4	286	1,623	418	26	17	276	61
カルガモ	31	15	86	94	137	120	214	529	27	59	248	1	13
コガモ	71	104	199	127	377	144	292	176	296	71	70		
トモエガモ													
ヨシガモ			1								1		
オカヨシガモ			2		68		67						
ヒドリガモ			244		2	591	5	11		130	352		
アメリカヒドリ		82	1								1		
オナガガモ	25	124	41	84	580	324	453	27		195	313		
ハシビロガモ	5		46	1		8	9		1	2		15	
ホシハジロ	6	9	237	23	7		6	5			5	4	5
キンクロハジロ	29	4	36	11	1				3			3	
ミコアイサ			24					11					
カワアイサ							27	4					
カモSP	1			6				1,245					
種 類 合 計	6	6	12	7	9	6	9	8	5	6	8	5	10
調査者数	168	338	1,055	408	1,576	1,191	1,359	3,631	745	483	1,007	299	4,877
	1	2	2	1	1	2	1	4	1	1	3	1	
1985年合計	—	903	—	—	133	—	6,284	—	4,017	—	—	—	6,061
1986年合計	—	955	—	1,317	37	—	1,763	—	2,955	—	—	2,131	6,411
1987年合計	—	741	—	500	24	729	3,210	—	3,170	—	—	2,048	6,811
1988年合計	—	712	—	543	457	718	3,483	—	1,692	—	—	965	3,361
1989年合計	589	467	—	625	162	469	3,148	10,890	664	—	—	627	3,371
1990年合計	332	930	—	305	—	638	1,400	6,110	1,071	702	—	1,453	4,901
1991年合計	433	227	1,019	28	772	497	2,136	5,879	1,132	—	—	486	2,781
1992年合計	250	1,045	966	98	1,713	605	2,367	8,486	861	716	—	1,276	4,591
1993年合計	170	750	1,270	135	1,889	585	1,275	3,713	528	396	—	676	2,891
1994年合計	228	415	1,467	141	1,267	2,006	2,150	2,578	848	659	—	1,179	4,021

"Japanese"が頭につく鳥たち

Japanese Night Heron	ミヅゴイ
Japanese Crested Ibis	トキ
Japanese Lesser Sparrow Hawk	ツミ
Japanese Crane	タンチョウ
Japanese Murrelet	カンムリウミスズメ
Japanese Wood Pigeon	カラスバト
Japanese Green Pigeon	アオバト
Japanese Green Woodpecker	アオゲラ
Japanese Pygmy Woodpecker	コゲラ
Japanese Wagtail	セグロセキレイ
Japanese Waxwing	ヒレンジャク
Japanese Accentor	カヤクグリ
Japanese Robin	コマドリ
Japanese Marsh Warbler	オオセッカ
Japanese White-eye	メジロ
Japanese Reed Bunting	コジュリン
Japanese Yellow Bunting	ノジコ
Japanese Crosbeak	イカル

一体どのような鳥が頭に“Japanese”がついているかを『日本の野鳥』の英語版で調べてみますと、(左記のように)全部で18種類ありました。まずそれ等を列挙し、更にその一つ一つについてどんな根拠があるのかを探ってみましょう。

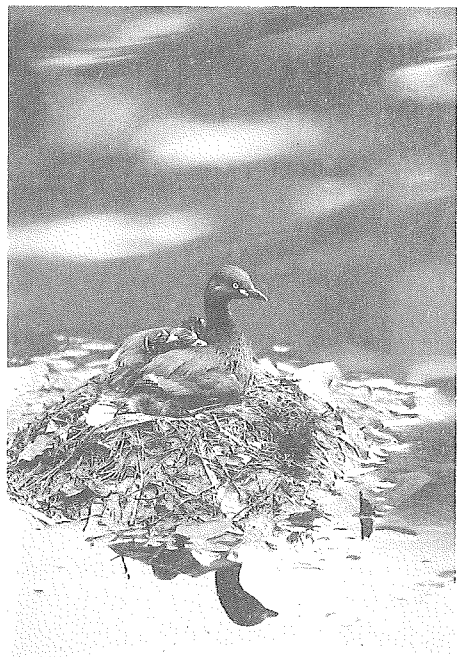
この中のアオゲラ、セグロセキレイとカヤクグリは前回（'94年12月号）と
りあげましたように日本固有種ですから、
"Japanese"が頭についていても素直に納得
がいきます。

全体的にいえることは、日本固有でないにしても、何等かの理由で特に日本との関連が強い、例えば、主として日本で繁殖し、生活の大部分を日本で過ごすもの。または、類似したものが他の国にもいて、その種との比較上「日本の種はこうである」というところを強調するために"Japanese"を冠しているものと思われます。

次回ではその具体例を上記18種の中から拾ってみましょう。(ハクトウワシ)

の合計数の推移

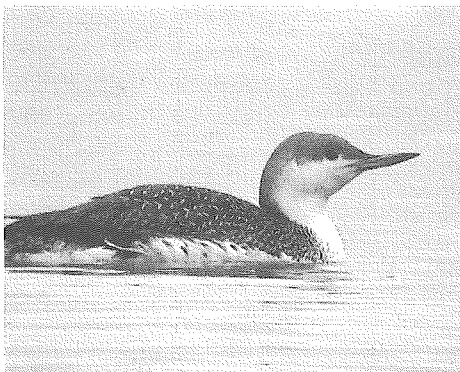
大沼公園	県立 農林公園	昭和池	さきたま 古墳	白鷺沼	柳瀬川	1995.1.15 埼玉県 支部
大沼	芳沼	菖蒲公園			富士見橋 ～ 柴橋	総合計
江南町	川本町	久喜市	行田市	浦和市	富士見市 志本市	
						147
						22
16	303	970	644		8	9,081
49	198	946	162	2	52	3,587
	401	456	62	28	188	3,200
	2	7				17
	1					4
	72					209
8		180			276	1,881
						2
	697	238	4	23	160	3,292
	118	140			6	352
	467	86	2	7	10	925
	108	68			12	277
						35
						31
					2	1,254
3	10	9	5	4	8	16
73	2,367	3,091	874	60	714	24,316
5	5	7	1	1	3	38
—	—	7,940	—	134	—	25,476
—	—	6,262	—	—	—	21,838
—	—	7,630	—	—	—	24,866
—	—	7,055	—	—	—	18,992
—	—	7,823	—	—	—	28,839
—	—	5,495	—	234	—	23,570
230	556	4,290	—	51	—	20,522
225	—	4,713	—	80	877	28,868
113	1,023	4,174	872	74	632	21,174
232	1,634	3,864	1,229	66	823	24,815



(カイツブリ 小出 博)

野鳥情報

- ツミ ◇4月9日、毛呂山町旭台で♂♀各1羽。林の枝上で交尾していた（黒木昭雄）。
 4月23日、同所で営巢中（増尾隆・節子）。
 ハイタカ ◇4月16日午前6時、大滝村中津川、栃ノ平で♀1羽。林道を歩いている時数メートル先のネットフェンスにとまる（坂戸市 青山）。
 コチドリ ◇3月19日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽（高橋達也）。◇4月1日、飯能市の浄化センター付近で1羽（藤森三治・恵美子）。
 ムナグロ ◇4月21日、幸手市木立のひばりが丘球場で6羽。ツグミ、ムクドリの中でエサをついばんでいた（田畑孝）。
 キョウジョシギ ◇4月22日、浦和市秋ヶ瀬のA区で2羽（鈴木博志）。
 ヒバリシギ ◇4月23日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽（鈴木博志）。
 チュウシャクシギ ◇4月23日。浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽（鈴木博志）。
 コシャクシギ ◇4月22日、浦和市秋ヶ瀬のA区で2羽。ムナグロの群れ中に発見。急いで、車内から写真を撮ろうとしたが飛び立たれてしまった（鈴木博志）。
 コアジサシ ◇4月6日、鴻巣市の荒川と糠田放水路の合流点で1羽（内藤義雄）。
 ◇4月21日、川越市の伊佐沼で2羽（中司隆由）。
 ヒメアマツバメ ◇3月5日、入間市の入間



アビ（3月2日調布市多摩川）

- 川豊水橋上流、笹井堰付近で50～60羽（古沢紀）。
 アオゲラ ◇4月9日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰付近で♂1羽（古沢紀）。
 アカゲラ ◇3月5日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰付近で♂1羽。ここで見たのは初めて（古沢紀）。
 コゲラ ◇4月1日、浦和市の田島団地内公園で1羽（陶山和良）。
 ツバメ（初認） ◇3月16日、戸田市道満で1羽（高橋達也）。
 サンショウクイ ◇4月27日、秩父市の羊山公園で4羽（海老原美夫）。
 ヒレンジャク ◇3月25日、行田市持田4丁目の地産団地で15羽。2日程前からレンジャクらしき声を聞いていたが、まさかこんな住宅地に来るはずがないと思い、見過ごしていた。この日、出勤しようと玄関を出たところ、隣の家のクロガネモチの木に何と15羽のヒレンジャクが群がり、赤い実を採食していたので、もうビックリ！もちろんビデオでバッチリ。3月28日まで滞在して赤い実を食べ尽くした後、どこかへ移動した（石井博・久美子）。◇4月6日、戸田市道満テニスコート横の木で9羽（高橋達也）。◇4月9日、入間市の入間川豊水橋上流の黒須テニスグラウンド前で8羽（横山茂）。◇4月9日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰付近で8羽。柳の新芽をついばむ（古沢紀）。◇4月9日、川本町の荒川、白鳥の飛来地近くで25羽（藤掛保司）。
 ノゴマ ◇4月5日午前9時、北本市下石戸で1羽。自宅庭の桜の木でさえずっていたのに、夫は話に夢中で見られなかった（吉原早苗）。
 クロツグミ ◇4月19日、荒川村の清雲寺で1羽。さえずりを聞く（山岸昭治）。
 アカハラ ◇3月5日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰付近で1羽（古沢紀）。
 ◇3月23日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で1羽（藤森三治・恵美子）。◇4月26日、浦和市の白幡沼の林で2羽が「キョロンキョロン、キョロンキョロン」（海老原美夫）。

シロハラ ◇4月5日、大宮市西新井の森で7羽以上。薄暗い林内の地面でさかんに落ち葉をかきわけていました。一度にこんなにたくさんのシロハラを見たのは初めてです。北国へ帰る途中の中継地点として集まってきたのでしょうか（浅見徹）。

ツグミ ◇3月30日、秩父市の羊山公園でぐぜり（山岸昭治）。

ウグイス（初鳴き） ◇3月14日午前8時、桶川市若宮の自宅付近でさえずりを聞く（立岩恒久）。

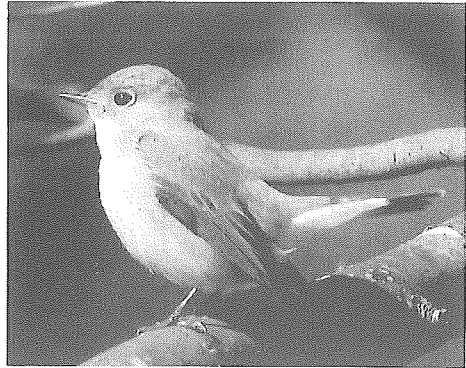
エゾムシクイ ◇4月27日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずりを聞く（伊藤芳晴）。

センダイムシクイ ◇4月24日、与野市八王子のかやのき団地内の公園で1羽。さえずりを聞く。昨年5月にもほぼ同じ場所でさえずっていた（大塚純子）。◇4月27日、秩父市の羊山公園で1羽（海老原美夫）。◇4月27日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずりを聞く。浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽。姿と声（伊藤芳晴）。

キビタキ ◇4月27日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でも1羽。のどの部分のみ黄色いので若鳥と思われる（伊藤芳晴）。

オオルリ ◇4月20日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で3羽（佐藤進）。◇4月23日、深谷市の仙元山公園で♂1羽（新井巖）。◇4月27日、秩父市の羊山公園で3羽（海老原美夫）。

エナガ ◇3月21日、秩父市の羊山公園でコケとクモの巣で巣作り中のペアを見つけた。4月27日、久しぶりに見に行ったら、すでに巣はからで、長い尾が曲がってしまったエナガと、尾がまだ短いエナガ2～3羽が近くにいた（海老原美夫）。



オジロビタキ（1月8日千葉県八柱霊園）

ヒガラ ◇4月1日、浦和市皇山町の自宅庭で4羽（星崎杉彦）。

キバシリ ◇4月16日、三峰山で1羽（山岸昭治）。

カシラダカ ◇3月23日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で7羽。腹が赤味をおびた夏羽になっていた（藤森三治・恵美子）。

◇3月30日、秩父市の羊山公園でマヒワのようにさえずる（山岸昭治）。

アオジ ◇3月30日、秩父市の羊山公園で一声さえずる（山岸昭治）。◇4月7日午前8時、桶川市若宮の自宅団地の庭でさえずる（立岩恒久）。

マヒワ ◇3月19日、富士見市の東武東上線ふじみ野駅東口ロータリー横の空地で約30羽。地上で採餌していた（野中毅）。

◇3月31日、戸田市道満の釣り堀横の林で42羽（高橋達也）。◇4月16日、横瀬町で複数（山岸昭治）。

イカル ◇4月9日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰付近で1羽。さえずっては新芽をついばむ（古沢紀）。

コムクドリ ◇4月13日、戸田市道満で♀1羽（高橋達也）。

表紙の写真

コアジサシ（カモメ科）

水面上空を、長時間、実にクルクルと動き回り、飛び続ける。

獲物を見つけると、停空飛翔状態で、そのまま少し下降したり上昇したり、シーンと狙いをつけ、タイミングを計っている。

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

次の瞬間、シューッと水面に突っ込み、翼で水を押し分けるように水しぶきを上げ、スウィーと飛び上がる。

クルクル、シーンから、スウィーまでの凄技。まいったなー！ 青沼俊雄（越谷市）

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月4日（日）

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口。集合後タクシーで現地へ。

リーダーの指示により分乗して下さい。

担当：岡安、吉原、内藤、榎本、永野（安）、永野（京）、川那部

見どころ：若葉青葉あふれる石戸宿！野鳥達は子育て・教育に大繁忙。樹間に「チーチー」の甘い声をそっとたどると、餌をねだる可愛いヒナ。高尾の池ではバンの親子も見られるでしょう。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：6月4日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋8:30、東武日光線乗換8:52→柳生9:02

担当：中島（康）、松井、五十嵐、入山、篠原（五）、玉井、内田

見どころ：バードウォッチング&ウォーキング……。駅から歩いて遊水地を巡ります。冬、万羽のカモでにぎわった池も今はひっそり。アシ原のオオヨシキリに托卵をねらうカッコウが今月の主役です。コヨシキリも出演しますヨ。

大滝村・三峰神社探鳥会

期日：6月4日（日）

集合：午前10時 三峰山ロープウェイ山頂駅前

交通：秩父鉄道熊谷7:16発、寄居7:50発、御花畑8:34発、三峰口行に乗車、終点下車。西武バスに乗り換え、三峰山ロープウェイ入口（大輪）下車。三峰ロープウェイ9:50発にて山頂駅へ。

解散：三峰山ビジターセンター周辺にて午後1時頃。

担当：小池、田口、林（滋）、菱沼（一）

見どころ：オオルリ、キビタキ、コルリなど多くの鳥たちが美声を奏しませてくれます。この時季、三峰の天候は変化が激しいので、雨具は必ずご用意下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月11日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗り換え

担当：菱沼（一）、森本、小池、田口、菱沼（洋）、斉藤、根岸、中島（章）、和田、石井（博）

見どころ：梅雨前線の通過するこの季節は水辺の鳥たちは元気いっぱい。大麻生うまれの、カルガモ、バン、カイツブリ達は、きっとファミリー大行進で迎えてくれるでしょう。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月18日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:12→坂戸乗換8:41→
川角8:50、または寄居7:43→坂戸8:25
着

担当：石井（幸）、高草木、青山、久保田、桜
庭、新堂、高松、佐藤（進）

見どころ：梅雨の盛りの頃です。ツバメは低
く川面を飛び 斜面林にカッコウの声
がこだまします。気まぐれヤマセミに
も期待！ 逢えるとラッキー。

注意：駅前に駐車場はありません。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月18日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東
口（集合後、バスで現地へ）または、午
前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、
伊藤、若林、岡部、倉林、嶋田、兼元

見どころ：見沼たんぼがみどり一色になっ
て、芝川にカルガモの親子が可愛い姿
を見せる。梅雨空の下、サトイモのは
っぱに雨蛙が止まっている。鳥たち
は、雨宿り。時たまの青空に、セッカ
やオオヨシキリがひとしきり大声を上
げる。見沼の六月、そっとのぞきにお
いで下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：6月24日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：支部をささえる仕事はすべてボランテ
ィア。その原点が袋づめといっても
オーバーでないでしょう。梅雨のいっ
時おしゃべりも兼ねて気軽にどうぞ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：6月24日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：最近ではビデオが多く、名称も「ビデオ
クラブ」にしたらなんて思っている人
もいるでしょうネ。でも写真も地道？
にやっています。その成果が『気まま
にバードウォッチング』にも結びつい

ているんです。鳥だけでなくネイチ
ャーフォトも大歓迎、是非おひろめし
てください。

支部総会のご案内

期日：6月25日（日）

詳しくは12頁をご覧ください。

会員の方多数のご参加をお願いします。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月1日（土）

集合：午後6時 上尾市平方八枝神社境内

交通：JR大宮駅西口 東武バス 8番乗場より
17時23分発平方行にて終点下車

担当：立岩、乗田、阿久沢、丹、浅見

見どころ：梅雨あけ前の蒸し暑い日の夕方、
神社の大ケヤキの下で、一寸早い夕涼
みはいかがですか。何が出るかは来て
からのお楽しみに、秘密としましょう。

注意：蚊の多いところ、防虫スプレーがあると
便利です。

山梨県・富士五合目探鳥会（要予約）

期日：7月1日（土）～2日（日）

集合：1日午前8時30分、JR新宿駅

詳細は別途参加者に通知します。

交通：JR中央本線新宿8:49発（快速）を予定
現地へは接続のバスを利用します。

帰着：新宿に2日18時頃の予定

費用：9,000円の予定（宿泊費・保険料等）現
地迄の往復交通費は別途各自負担

定員：15名（先着順、県支部会員に限る）

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性
別、電話番号を明記して、中島康夫（〒
411-0101 静岡県沼津市大井町1-1-1）に
送付してください。

見どころ：水場にくる、ルリビタキ、カヤク
グリ、ムシクイの仲間達を観察するほ
か、周辺を歩きます。

注意：宿泊は男女別相部屋です。個室の用意
はできません。

7月9日（日）熊谷市大麻生定例探鳥会

16日（日）浦和市三室地区定例探鳥会

23日（日）狭山市入間川定例探鳥会

行事報告



2月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 57人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ
ホシハジロ キンクロハジロ バン クイナ タ
ゲリ イソシギ イカルチドリ セグロカモメ
キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウ
カラ ヤマガラ メジロ ホオジロ アオジ カ
ワラヒワ シメ アカハラ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 芝川
のお立ち台から下流にいつからか「島」ができた。さ
さやかな緑の中州は鳥の楽園になり、いつもバン
がカモたちが昼寝をしている。今日は、三室初登
場のクイナが姿を見せ、中州をゆっくり横断した。
三室の探鳥会には、いろんな団体が参加するが、
今日はカブスカウトだった。かわいい未来のウォ
ッチャー、親切に致しました。(楠見邦博)

2月25日(土) 東松山市 物見山

参加: 32人 天気: 曇時々晴

カワウ アオサギ オオタカ ノスリ キジバト
アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ
シロハラ ツグミ キクイタダキ エナガ ヒガ
ラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ アオジ ウソ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種)
初めてのコースというものは、下見で各種見られ
ていても不安なもの。でも予想どおりの鳥がほぼ
出てくれてホッ。ウソは全員がじっくり、しかも
近くで見ることができた。初見の人も多くいて、
大成功(?)。「林間コースで環境も良く、静か
で良い場所だ。是非また計画して下さい。」との
ご意見を頂き、感謝、感謝。(内藤義雄)

2月25日(土) 坂戸市 高麗川

参加: 20人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ ハイタカ ノスリ バン イカルチド
リ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ ヤマ

セミ カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) スター
ト場所の多和田橋が修繕工事中だったが、全員無
事渡り、ホット胸をなでおろす。途中、ノスリを
全員で確認。イタチのおまけまで付いた。気の早
いヒメアマツバメが10数羽上空を舞う。何度下見
しても出なかったヤマセミを、これまた全員が見
られて、ラッキーな探鳥会を終了。(石井幸男)

2月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12人

荒木恒夫、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、
尾崎甲四郎、角田真喜子、佐久間博文、橋口長和、
藤野富代、松元達夫、安原久子、吉安一彦

2月26日(日) 行田市 さきたま古墳公園

雪のため中止。

2月26日(日) 久喜市 昭和池

雪のため中止。

3月11日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 25人 天気: 曇

トビ コジュケイ キジ キジバト コゲラ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミ
ソサザイ ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ
エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュ
ウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
ス (26種) 初めての探鳥地。東照宮の裏を流れる
稲荷川に沿って途中から滝尾神社の参道を通り、
滝尾神社へ。河原で昼食をとり、東照宮に帰り、
解散。スタート直後、大谷川でカワガラス2羽と
キジの♀を観察。滝尾神社の参道では、10羽位の
エナガの群れに出会う。コガラ、キクイタダキ、

ゴジュウカラも出現し、なんとか探鳥会気分は味わえた。
(中島康夫)

3月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(43種) コハクチョウを期待して参加した方たちにはゴメンナサイ。今年は3月早々に北帰行。リーダーもがっかり。それでも、アオゲラ、アカゲラをじっくり観察できたし、ノスリも全員で見ることができた。ハクチョウさん来年も来てね。できたら3月中旬まで残ってネ。(小池一男)

3月12日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 28人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ コジュケイ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(36種) 紅梅・白梅の花に寄るメジロに見送られてスタート。見沼代用水東縁を歩く。ヒバリのさえずりが早春の風に乗ってとても心地好かった。途中、加田屋川では、皆でコチドリを観察。季節の変化を野鳥で知る楽しい一刻だった。見沼自然公園では、カワセミがちょっとした間挨拶に出てくれた。初めての探鳥地であったが、参加者皆様の協力もあって無事終了。ありがとうございました。(工藤洋三)

3月12日(日) 川越市 西川越

参加: 34人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ

トビ コジュケイ クイナ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) よく晴れた春が感じられる日。公園の池でキンクロ、川原に出て春の化粧をした小鳥たちを見て、川の中のカモ、サギをゆっくり見てから、当日のメインのカワセミを間近で見ていたら、ダイビングをして小魚を取って見せてくれた。(佐久間博文)

3月18日(土) 大宮市 花の丘公園

雨のため中止。

3月19日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 43人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ オシドリ マガモ カルガモ オナガガモ サシバ チョウゲンボウ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(40種) 予告したカワセミ、ルリビタキはばっちり見ることができた。そして……プレッシャーがかかるので『しらこぼと』に書かなかったヤマセミを、なんと!全員で飽きるほど見ちゃったノダ!ウフフ。サシバ初認、オシドリのおまけまで付いて、大満足の玉淀河原だった。(小池一男)



ツミ♀

連絡帳

●総会のお知らせ

日時 平成7年6月25日(日)

午後1時受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

(講師・テーマ未定)

午後2時30分～4時30分 総会

場所 埼玉会館5階5B会議室(浦和市高砂3-1-4 / 浦和駅西口から県庁通りを西に進み、下り坂の右側。駅から徒歩約5分)

議題 平成6年度事業報告・決算報告

平成7年度事業計画案・予算案

平成7年度役員の選出

参加資格 支部会員に限りません。支部会員であれば、どなたでもどうぞ。総会後懇親会も予定しています。

●日本野鳥の会阪神大震災義援金

兵庫県支部再建のための義援金に、各地の探鳥会でお預かりした合計44,741円を送金しました。先に支部会計の中から送金した50,000円と合わせると、94,741円になります。各自がご送金くださった分も多かった事と思います。ご協力ありがとうございました。

●バードソン公式チーム準備中

今年は10月8日(日)午前6時から午後5時までの11時間、野鳥保護基金の充実のために1,500万円を目標に開催します。

埼玉県支部では今年も公式チームの参加を考えていますが、メンバーなどは未定です。5月末日の申し込み締切も間近にせまり、ただいま準備中です。

●『しらこぼと』発送について

5月号の発送作業が5月1日だったものですから、「まだ届いていないが……」というお問い合わせが何件もありました。

多くの方が『しらこぼと』をお待ちくださるご様子は大変ありがたいのですが、埼玉県支部は、支部報の編集から袋づめ、発送作業

までも、全部ボランティアの手で続けられています。通常のスケジュールは、次のとおりです。

最終土曜日の2週間前の土曜日 編集会議

最終土曜日の1週間前の土曜日 校正作業

最終土曜日 袋づめの会

最終土曜日の次の月曜日 発送作業

カレンダーの状況で1週間ずれる事もあります。袋づめの会は日程をお知らせしていますので、そのことから発送の日もお分かりと思います。袋づめした『しらこぼと』の総重量は数十キロ。業者に委託しないで、経費節減のため、毎月事務局ボランティアが郵便局まで運び、発送しています。

●6月の土曜日当番(2時～6時)

3日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)

10日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

17日 久保田忠資 和田康男(校正の日)

24日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

5月1日現在 2,645人です。

活動報告

4月16日 役員会議(司会:高草木泰行、各部の報告・バードソン・探鳥会・その他)。

4月22日 朝霞市内のマンションのミニサンクチュアリイベントに出席(海老原)。

4月24日 埼玉行政監察事務所から、自然保護行政監察の基礎資料収集に来局。

4月26日 阪急交通社の担当者が国内探鳥ツアー企画の話し合いのために来局。

編集後記

今年もツミが職場の林に来ているけれど、繁殖はやはり駄目かな。(森本)

なぜか編集部長がなかなか来ない。自宅に電話してみる。いない。勤務先に電話してみる。なんと本人が出た! え、今日……絶句。2回目! 毎月の編集会議が早すぎるんだけど、あは、またビールかな。(海)

『しらこぼと』1995年6月号(第134号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用